



コラム 松阪の相撲人気

江戸時代初期、寺社の建立・修繕資金を募るための勸進相撲が全国各地で発生し、中期には定期的に興行されるようになりました。やがて、將軍上覧相撲が行われるようになると、庶民の娯楽として爆発的な人気を誇りました。

宝暦から文政期の松阪の風俗・習慣を著した森壺仙著『宝暦ばなし』に、「船江八幡宮の会式角力は、その頃は賑わい」、「鞍馬山・源氏山・出羽崎という大角力が始めて来る。川井町裏にて興行、これより年々大角力来る」と綴られ、この頃より松阪の相撲興行が定着したと推測されます。

「勢州松坂大相撲勝負附」は、嘉永5年(1852)、百足町(西之庄町)の毘沙門寺境内において9月3日から7日まで興行された相撲の取組の勝敗を記したもので、大関・鏡岩浜ノ助や後の大関・小柳常吉、後の関脇・2代目常山五郎治の名前が見えます。ちなみに、彼らは2年後の嘉永7年、ペリー一行が浦賀沖に再来航した際に、ペリー提督への進物の運搬や相撲披露のために派遣され、その力は水兵たちを大変驚かせたといわれています。

この毘沙門寺での相撲興行のことは、本町の紙商・小津清左衛門家11代長柱の綴った日記に、8月24日鏡岩一行到着、同25日鏡岩へ振舞、同26日稽古相撲見物、同27日鏡岩・小柳・常山らへ振舞、9月3日(初日)花贈呈、7日鏡岩出立前の振舞、8日鏡岩一行出立、津まで奉公人見送り、と詳しく記されています。このように、長柱は相撲観戦を楽しむだけではなく、轟真力士の支援も



相撲興行の様子(昭和14年岡寺山繼松寺)

行っていたことが窺えます。

明治期には川井町や毘沙門寺のほか、西町の長竹庵跡・中町の岡寺山繼松寺・日野町の弥勒院・殿町の代官小路などで興行されていたことが相撲番付から読み取れます。明治5年(1872)10月発行の相撲番付には、東の大関・境川浪右衛門、関脇・磐石力勝、西の大関・大纏長吉、関脇・小柳常吉などの名前が挙がります。当時、境川と大纏の取組は人気を集めており、興行場所の繼松寺でも大盛況を博したことが推測されます。

松阪における相撲興行の賑わいは、昭和14年3月に繼松寺で撮影された1枚の写真にいきいきと写し出されています。力士の土俵入り、身動き

が取れないほど多くの観戦者の様子から、松阪の相撲熱の高まりを感じ取ることができます。また、この寺の山門前の一対の幟立ては、大相撲立行事13代木村玉之助と日野町の相撲世話人・古川忠七の寄進により、昭和3年3月に建立されたもので、相撲興行ゆかりの地であることを今に伝えています。

原田二郎旧宅では、企画展「松阪の相撲興行」(4月28日(火)~8月30日)を開催します。実業家・原田二郎は大の相撲好きで知られますが、少年期には松阪での相撲観戦を大に楽しんだのではないのでしょうか。

(学芸員 中戸)

歴史文化3施設のご案内

【開館時間】
9:00~17:00 (16:30までにご入館ください)
【休館】
水曜日(祝日の場合は翌平日)

【連絡先】
◆旧長谷川治郎兵衛家
Phone: 0598-21-8600
◆旧小津清左衛門家
Phone: 0598-21-4331
◆原田二郎旧宅
Phone: 0598-23-1656

発行 NPO法人松阪歴史文化舎
〒515-0082 松阪市魚町1653
Phone 0598-21-8600 (事務所)
E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com
HP https://matsusaka-rekibun.com/



本号は「春号」ということで端午の節句にちなみ、長谷川家に伝わる久保田米僊筆の武者図をご披露いたします。

この武者は、箱書きに「笠置山足助之次郎」とあることから、元弘元年(1331)に鎌倉幕府打倒を企てた後醍醐天皇方と幕府方との間で戦われた笠置山の戦いにおいて、後醍醐天皇方として奮戦した足助重範を描いたものと考えられます。甲冑に身を固めた重範の勇壮な姿が力強く表された作品です。

新緑の美しい季節を迎えました。当館では皆様に地域の歴史と文化に親しんでいただけるよう各種展示や催しを行っております。ぜひご来館いただき、ゆっくりとご覧いただければ幸いです。